

(評価者：科学委員会)

モニタリング項目	No. 20 ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所、斜里町、羅臼町、知床財団		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	知床半島全域にて、ヒグマの目撃情報や出没情報、被害発生情報をアンケートや通報などにより収集。		
評価指標	出没及び被害発生の数。ウトロ・羅臼市街地に出没又は出没の恐れのあるヒグマの駆除数。		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>【目撃・出没状況】 斜里町及び羅臼町における平成27年度のヒグマ目撃件数は、それぞれ1,487件及び313件であり、両町ともに平成24年度の大量出没年に次ぐ件数の多さとなった。 国立公園及び鳥獣保護区におけるヒグマの目撃件数は斜里町で1,301件、羅臼町で255件であった。</p> <p>【人為的死亡個体数】 ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で49頭（有害捕獲34頭、狩猟13頭、事故死2頭）、及び羅臼町で19頭（有害捕獲17頭、狩猟1頭、事故死1頭）の計68頭と、過去最多となった。</p> <p>【被害発生状況】 両町においてヒグマによる人身事故は報告されなかった。</p>		
今後の方針	引き続き両町におけるヒグマ目撃・出没状況及び被害発生状況等の情報収集と整理を行う。 カメラマンによる人馴れ及び釣り人による非意図的な餌付けが進む恐れがあるため、引き続き周知に努める。 「知床半島ヒグマ保護管理方針」は平成24年3月に策定され、第1期の計画期間が平成28年度末までとなっており、本年度次期管理方針見直し作業を実施中。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

1. モニタリングの目的

ヒグマ出没状況、被害発生状況を継続的にモニタリングすることにより、原生的な自然環境の保全と、地域の主要な産業である観光を始めとするレクリエーション利用との両立が図れているのかを把握する。

2. 評価手法（調査の手法＋データの項目）

ヒグマ出没状況は、斜里側においては観光客などによるヒグマ目撃情報をアンケート形式で随時収集することによって把握した。羅臼側においては、国立公園区域外も含む町内全域のヒグマ出没に関する通報ルート（町役場経由、主に地元住民が目撃・通報）による情報提供が主体のため、アンケート以外にそれらも含めた。アンケート用紙はヒグマを目撃した場所、日時、状況及び個体の特徴などを記入するもので、知床国立公園内にある主要な施設（知床自然センター、鳥獣保護区管理センター、知床世界遺産センター、知床五湖フィールドハウス、木下小屋、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウス）に配置されている。アンケートは電話や口頭でヒグマ目撃情報を入手した場合や偶然ヒグマを目撃した場合にも記録し、地区別に集計した。

4. 評価年度の調査結果

○斜里町及び羅臼町における平成 27 年度のヒグマ目撃件数は、それぞれ 1,487 件及び 313 件であり、両町ともに平成 24 年度の大量出没年に次ぐ件数の多さとなった。

国立公園及び鳥獣保護区におけるヒグマの目撃件数は斜里町で 1,301 件、羅臼町で 255 件であった。(表 1)

○ヒグマの人為的死亡個体数は斜里町で 49 頭（有害捕獲 34 頭、狩猟 13 頭、事故死 2 頭）、及び羅臼町で 19 頭（有害捕獲 17 頭、狩猟 1 頭、事故死 1 頭）の計 68 頭と、過去最多となった。(図 3)

○ミズナラの堅果個数および重量の推移から平成 27 年度は、不作年であった。(図 6)

表 1：知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区における地区別・月別のヒグマ目撃件数
(平成 27 年 3 月 12 日～平成 28 年 2 月 29 日)

地区区分	月												総計
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
斜里側													
幌別・岩尾別地区	37	49	49	109	210	257	79	54	22	0	0	0	866 (+361)
知床五湖園地地区	0	2	16	29	56	27	15	7	1	0	0	0	153 (+107)
イダシュベツ・カムイワッカ地区	0	0	0	38	26	19	14	14	3	0	0	0	114 (+76)
知床連山登山道地区	0	1	1	0	7	23	3	0	0	0	0	0	35 (+25)
知床横断道地区	0	0	9	27	30	28	1	9	1	0	0	0	105 (+61)
知床岬地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (±0)
幌別川ーオベケブ川地区	3	5	0	4	3	7	3	3	0	0	0	0	28 (-32)
小計	40	57	75	207	332	361	115	87	27	0	0	0	1,301 (+598)
羅臼側													
ルサー知床岬地区	0	1	3	16	33	56	14	1	0	0	0	0	124 (+87)
湯ノ沢町ー知床岬地区	0	2	1	4	21	17	2	3	0	0	0	0	50 (+37)
羅臼市街地北側ー岬町地区	1	3	10	9	27	18	11	2	0	0	0	0	81 (+53)
小計	1	6	14	29	81	91	27	6	0	0	0	0	255 (+177)
総計	41	63	89	236	413	452	142	93	27	0	0	0	1,556 (+775)

※ () 内は前年度との比較

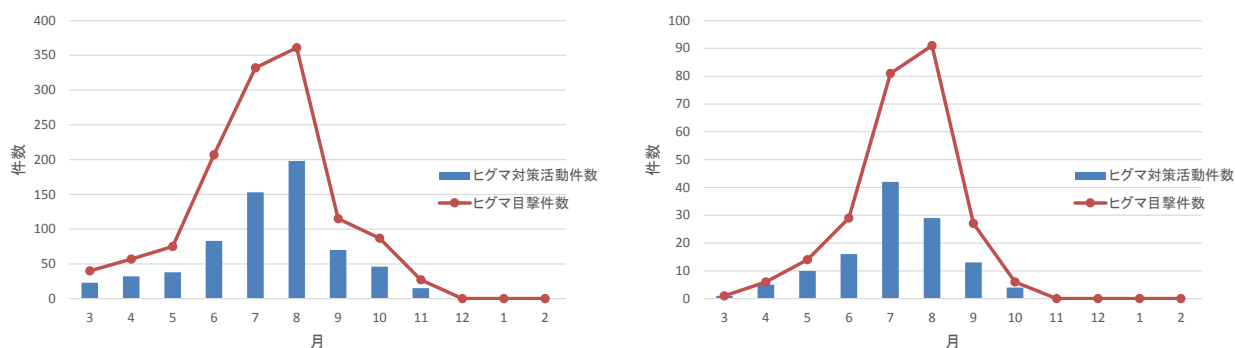


図 4：斜里町（左）および羅臼町（右）のヒグマ目撃と対策活動の月別件数（平成 26 年 3 月～平成 27 年 2 月）

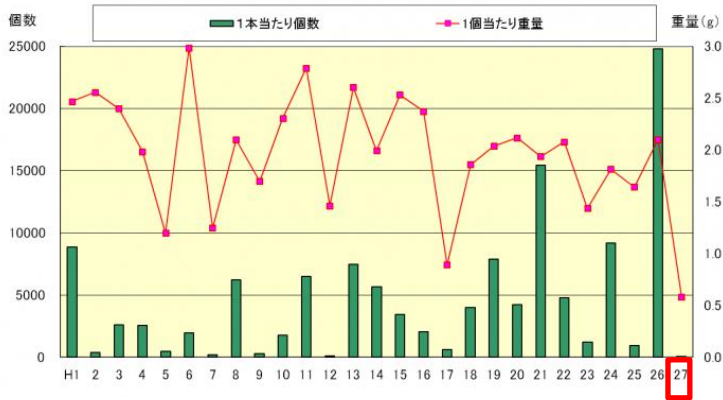


図6：27年度ミズナラ堅果結実調査結果（どんぐり調査）堅果個数及び重量推移（北海道森林管理局実施）

◎人身事故

平成 27 年度における斜里町、羅臼町のヒグマによる人身事故報告はなかった。

◎危険事例

○斜里町

- 1) 4 月 16 日にウトロ香川(旧自然村) で単独のヒグマが住宅の窓をのぞき込んだという通報があった。現場到着時には既にヒグマの姿はなかった。
- 2) 6 月 3 日、真鯉の国道沿いでヒグマと乗用車の接触事故があり、ヒグマが手負いの状態となった。その後、警察が国道を一時閉鎖して駆除となった。
- 3) 6 月 13 日、知床横断道路でヒグマが自転車を追いかけるという極めて危険な状況が発生した。事故には至らなかった。
- 4) 6 月 16 日、真鯉でヒグマの交通事故死体が発見される。事故発生は 15 日夜と推定された。
- 5) 6 月 28 日、ウトロのコンビニエンスストアで深夜に単独ヒグマが目撃される。
- 6) 6 月 13、22、26 日に岩尾別でヒグマが車両に接近・威嚇突進する事例が発生。
- 7) 7 月 5 日、岩尾別でヒグマが車両を叩く事例が発生。怪我人はなし。
- 8) 7 月 7 日、岩尾別温泉道路でバイクを追いかける単独ヒグマの情報あり。
- 9) 7 月 11 日、知床峠付近で自転車と親子ヒグマが近距離で遭遇。事故には至らず。
- 10) 7 月 13 日、日の出の商店の空き瓶置き場の瓶がヒグマによって一部倒される。
- 11) 7 月 17 日、知床横断道路で親子ヒグマ (09B06) が停車している乗用車に近づき臭いを嗅ぐ事例が発生。
- 12) 7 月 18 日、知床横断道路、知床公園線でヒグマがバイクや車に威嚇突進する事例が発生。
- 13) 7 月 26 日、幌別橋付近でヒグマ (09B06) が乗用車に足をかけ揺する事例が発生。
- 14) 7 月 29 日、幌別地区で車を追いかける単独ヒグマの目撃あり。
- 15) 8 月 2 日、エゾシカファームでシカ用のエンジンがヒグマに食べられる。
- 16) 8 月 6 日、フレペの滝遊歩道内でヒグマが出没し、利用者の退出中にヒグマ (CP) がシカを追いか、人の列の間を通過する事例が発生。
- 17) 8 月 13 日、知床横断道路で親子ヒグマ (09B06) が出没し、子の 1 頭が車に前足をかけてのぞき込む事例が発生。
- 18) 8 月 13 日、知床連山の三ツ峰野营地テントがヒグマに破かれる事例が発生。テントは無人で食糧等は入っていなかった。
- 19) 8 月 14 日、ウトロ東の沿岸をヒグマ (CP) が泳いでウトロ漁港方面に移動する事例が発生。観光船に協力を仰ぎ港への侵入を阻止。ヒグマを幌別川まで押し戻す。その間、国道沿いに大渋滞が発生し、警察に交通整理の協力を要請。
- 20) 8 月 23 日、エゾシカファームの解体場のシャッターがヒグマに壊され、シカの残滓を荒らされる事例が発生。同日の夕方に駆除態勢をとるが、捕獲に至らず。
- 21) 8 月 24 日、ウトロ西で夜間ヒグマの目撃情報があり、現場を調査中に単独ヒグマを目視。ヒグマは山側へ逃げロスト。翌早朝、パトロールを実施したがヒグマの姿なし。糞から採取した遺伝子より、ルシャヤ羅臼を広域的に行動しているオス (MA) と判明。その後、この個体は 9 月 1 日にウトロ高原農地で駆除されたことが遺伝子から判明。
- 22) 8 月 30 日、岩尾別孵化場の電気柵内にヒグマが侵入。住宅のガレージ内にも侵入し、移動後に緊急駆除となる (CP)。
- 23) 9 月 9 日、町民公園パークゴルフ場内でヒグマの足跡が見つかる。役場と猟友会が付近を捜索したがヒグマは確認されず。

- 24) 9月9日、ウトロ中島で子グマの目撃情報あり。9月6日に小中学校のグラウンドを走る子グマがいたとの情報あり。翌日、ペレケ川沿いで0才2頭を発見し駆除。
- 25) 9月13日、エゾシカファームに常習的に侵入した個体が駆除となる(DF)。
- 26) 9月29日、ウトロ市街地内のペレケ川で単独ヒグマを発見し駆除(EZ)。体重345kgのオス成獣であった。
- 27) 10月15日、ウトロ市街地内に0才2頭連れ親子が侵入。最終的に野営場側のフェンスを乗り越え逃走。
- 28) 10月18日、幌別川河口で釣り人がヒグマに荷物を荒らされる事例が発生。現場に執着している単独ヒグマ(EX)を危険と判断し駆除。
- 29) 10月18日、幌別川河口で単独ヒグマが出没し、釣り人の放置したサケを採食する事例が発生。追い払い中に実弾が誤射され、ヒグマ手負い状態となる。危険と判断し緊急駆除(SZ)。
- 30) 10月19日、ウトロ西の国道上で夜間、単独ヒグマが目撃される。ヒグマは海岸へ逃走し、その後の行方は不明。ヒグマには耳標が付いていた。
- 31) 11月10日、ウトロ東でヒグマ出没場所に大量の魚ゴミを発見し、回収。注意看板を設置。

○羅臼町

- 1) 7月1、4日に知床峠付近で一般車両が親子グマ(親ヒグマID:08B14)に威嚇突進を受けた。当該親子は斜里側で自転車を追いかけた親子と同一の可能性があった。
- 2) 7月21日、深夜にオッカバケ川右岸で一般住宅のゴミが荒らされる被害が発生した。空のゴミ箱が持ち去られ、翌日の深夜には少し離れた場所で木箱に入った生ごみが持ち去られた。8月4日、加害個体と考えられるヒグマが有害捕獲となった。
- 3) 8月17日、知昭町の水産加工場敷地内にある汚水槽が荒らされる被害が発生した。汚水槽の上に積まれた木製パレットが破壊され蓋が開けられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、8月25日に駆除となった。
- 4) 8月21日、釣り場(瀬渡し場)の一つであるペキン川河口において、利用者が持ち込んだ食べ物や釣った魚がヒグマに奪われる被害が特に酷いと報告された。原則として、レクリエーション利用のためのヒグマの駆除(あるいはそれに準ずる対応)はしない事になっていたが、特に人に対して至近距離まで接近して来る事例が報告された同所においては、異例の追い払い対応が行われた。
- 5) 8月22日、栄町で深夜に一般住宅裏の小屋から塩マス、干し魚がヒグマに奪われる被害が発生した。翌日の夜にも同じ場所に出没していることが自動撮影カメラによって明らかになったが、その後、姿を現すことがなかった。当該個体は、8月25日に有害捕獲された個体と体格が類似していたため、同一だった可能性がある。
- 6) 9月10日、岬町モセカルベツ地区で夜間に水産加工場付近でヒグマが目撃され、対応中に残渣が食べられる被害が発生した。威嚇弾による追い払いを実施した結果、同じ場所に出没することはなかった。
- 7) 9月15日、オッカバケ川右岸の水産加工場の屋内作業場にヒグマが侵入する被害が発生した。作業場の出入口は破壊され、屋内に保管してあった鮮魚が食べられた。これらの被害を受けて捕獲檻が設置され、翌16日に有害捕獲となった。
- 8) 10月22日、幌萌町の水産加工場で発砲スチロールゴミが荒らされる被害が発生した。現場検証の結果、残渣も食べられていることが明らかになり、被害は9月末頃から続いていたことが判明した。当該個体は、日中にも出没していることからそのまま捕獲体制となり、同日中に敷地に侵入しようとしていた当該個体が有害捕獲となった。
- 9) 11月15日、春日町の漁業番屋の倉庫にオス成獣ヒグマが侵入しサケトバを食べられる被害が発生。侵入時にシャッターと窓ガラスが破損。当該個体は後日に駆除となった。